

ダルエスサラーム 電力配電網整備計画

実施地域

ダルエスサラーム



1. プロジェクト要請の背景

ダルエスサラームはタンザニアの産業・経済の中心地で、200万の人口を有している。同市の電力消費量は全国の45%を占めており、タンザニアの社会経済活動の発展のためには、同市への電力の安定供給が必須条件となっている。

同市への電力供給はタンザニア電力供給公社(TANESCO)が担っているが、TANESCOの配電設備は貧弱で保守管理も不十分なために停電が頻発しており、諸活動の大きな障害になっていた。

このため、タンザニア政府は、我が国の無償資金協力によりTANESCOの配電設備の改善を進めているが、保守管理技術が不足しているため、TANESCOの同技術の向上を目的として、我が国に本プロジェクトが要請された。

2. プロジェクトの概要

(1) 協力期間

1996年1月15日～1999年1月14日

(2) 援助形態

個別専門家チーム派遣

(3) 相手側実施機関

タンザニア電力供給公社(TANESCO)

(4) 協力の内容

1) 上位目標

ダルエスサラーム首都圏において、電力供給が安定する。

2) プロジェクト目標

TANESCOの配線保守管理技術が向上する。

3) 成果

a) TANESCOの職員が配線の定期点検技術を習

得する。

b) 保守工具や資機材の整理整頓などの基本的な業務習慣が改善される。

4) 投入

日本側

長期専門家 5名

短期専門家 3名

研修員受入 3名

機材供与 0.26億円

タンザニア側

カウンターパート 4名

秘書、タイピスト

プロジェクトスタッフ 37名

事務所提供

ローカルコスト

3. 調査団構成

JICA タンザニア事務所

(ダルエスサラーム工科大学に委託)

4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1998年10月26日～1999年1月31日

5. 評価結果

(1) 効率性

本プロジェクトでは、準備段階で綿密な調査が行われたため、当初計画より前倒して専門家派遣、機材供与を実施することができた。TANESCOからの資機材の供給は十分でなかったが、日本側から適切な内容の機材が供与され、技術移転は効率的に実施された。

本プロジェクトでは、毎日リーダーのもとに全職員

が集まり、問題点やその解決法などについて、職場での意見の共有を図った。このような方法はタンザニアの労働文化において新しいことであったが、職員の仕事に対するやる気や誇りを向上させることにつながり、技術移転を効率的に行ううえで有効であった。

(2) 目標達成度

専門家の適切で熱心な指導とカウンターパートの意欲的な姿勢・努力により、配線の保守管理技術は十分移転され、TANESCOの技術レベルは大いに向上した。保守技術の取得のみならず、カウンターパートは、供与された最新式の電線保守機材を参考として、簡単な工具や機器を自分で製作できるまでになった。

また、カウンターパートの規律が高まり、何をすべきか前もって考えるという基本的な業務習慣も身についた。

(3) 効果

TANESCOの保守管理技術の向上によって、プロジェクト対象地域では、電圧が安定し電力の供給状況も改善されており、ダルエスサラーム市民のTANESCOに対する信頼が高まった。

電圧の安定及び停電の解消が、今後ダルエスサラームでの社会経済活動の一層の活発化とTANESCOの収益増に結びつくことが期待される。

(4) 計画の妥当性

ダルエスサラームはタンザニアの産業・経済の中心地であり、同国の社会経済活動の発展のためには、同市への電力の安定供給が不可欠である。

このため、同市における配電網の保守管理に対する重要性や必要性は大きく、本プロジェクトは高い妥当性を有していると判断される。

(5) 自立発展性

技術移転によりカウンターパートの技術力は向上し、また供与した機材も熱帯地域の環境下において耐え得るものであることから、今後、TANESCOの自助努力により、配電網の保守活動を継続していくことは可能であると思われる。

6. 教訓・提言

(1) 教訓

プロジェクトの活動における問題点やその解決法などについて関係者間で広く意見を共有することは、彼らのプロジェクトへの積極的な取り組みにつながり、技術移転を効率的に行ううえで有効である。



電柱の交換を行うカウンターパートたち



カウンターパートによる保守管理活動